

国内福祉研修報告書

1. 研修テーマ

奈良の歴史的風土や町並み保存について学生の視点から考える

2. 研修先

奈良まちづくりセンター

奈良市中新屋町2-1 奈良物語館2

F



3. 研修期間

2月24日～26日

4. 研修先選定の動機

私たちは1年次の地域に関する「地域創造入門」や「地域史入門」の講義を受けてまちづくりや歴史的町並みの保存に興味を持った。そこで、基礎演習の先生に相談したところ、奈良にある奈良まちづくりセンターで学生や若者が中心とするグループの「楽生座」の存在を教えてもらい、その活動に興味を持ち、直接視察し考察することとなった。

5. 研修プラン

実際、プランニングするにあたって室理事長や山岡先生とメールでやり取りをして決めた。

1日目：奈良まちづくりセンター理事長の室さんから奈良町案内をしてもらい、その後奈良町の歴史と市民活動についてレクチャーしてもらう。

2日目：ならまちセンターでならまち振興財団の林専務からレクチャーをしてもらう。その後ならまち振興館で奈良NPOセンターの中川順子理事長からレクチャーをしてもらう。

3日目：自分たちのみで町を歩き、視察する。

6. 研修内容

「楽生座」が昨年作成した「ならまちぐるぐるガイド」をもらうことができた。それは市販のガイドブックとは異なり主な観光スポットを



学生目で紹介していた。そのようなガイドブックを県が作成すると半官半民のためあまり個人のお店を紹介できないが、そのガイドは学生の視点で個人のお店を紹介していた。そのようなガイドブックなら自分たちも作成し、地域の活性化に協力することができると思った。

奈良町の案内が終わった後、奈良町物語館で室さんからパワーポイントを用いて話を伺った。話を聞いていてまちづくりでは自分の計画や目標があっても財政上厳しくてなかなか計画を実行することができないこと、成果を出すには数年かかる場合が多いことがわかった。どの職業もだとは思うが夢や理想だけでは、結果を出すことはできないと思った。

2日目は、午前中に室さんに奈良町を案内していただいた後にならまち振興財団専務理事の林さんから話を伺った。そこで気になっていた奈良県の宿泊施設の少なさについて質問した。実は、奈良県は47都道府県の中で宿泊施設は最も少ない県であり観光客のほとんどは京都に宿泊してしまうのである。なぜそうなるのかは分からなかったが、その対策としては朝の奈良公園がとても綺麗ななのでそのことをPRしていこうと考えているとの回答を得た。朝早くに奈良にいないと見ることのできない光景なので、必然的に奈良に宿泊せざるを得ないことになるのである。

奈良には木造建築の古い町並みが残っていた。そこには今でも舞妓さんが2人残っていること、家の窓のカーテン代わりに着物などの切れはしである綺麗な布が使われていることがわかった。舞子さんは京都にいるイメージが強かったが、実は奈良が発祥の地であることに驚いた。

今までNPOというもの自分の中では漠然と困っている人を助けているんだろうなというイメージがあるだけだったが、実際に活動している方の話を聞いてとてもNPOへの関心が高まった。また大学にあるボランティアセンターはNPOと連携していることを初めて知った。私たちが訪れたNPOはボランティアを必要としている人とボランティアに参加したい人をつなぐ役割をしていた。その一環で大学にもボランティアセンターを

設置することでお互いに情報交換をしていた。法政大学にもボランティアセンターが設置されているが、それは現代福祉学部があるためだと思っていたが福祉の学部がない大学にも設置されていると聞いた。ボランティアセンターがあることによってNPOからも情報が流れてくるので、上手く連携を図ることができているのだと分かった。



7. 成果

今年の春休みには、この奈良の国内福祉研修の他にも学生チャレンジ・サポート制度を利用し、秋田の藤里町にも訪ねたのだが、どちらに関しても自分たちで行動すれば、考え方が色々変わり、知識が増え、スキル（メール・電話など連絡のとりかたや交渉など）が身についたのではないかと思う。また、研修に行くことで今まで興味のなかったことに興味をもつようになったのでこのような研修制度を利用して、色々な場所を自分の目で直接確かめることはとても重要なことであると感じた。



現代福祉学科 Y. M (2009年度入学)
S. K (2009年度入学)
T. J (2009年度入学)

*参考文献

- ・まちづくり論文集「地域創造」第48号
- ・財団法人たんぼぼの家
- ・社会福祉法人わたぼうしの家
- ・その他レクチャーなどでもらった資料